

次世代にどのように未来を引き継いでいくか ー持続可能な開発のための教育（ESD）の観点からー

持続可能な開発の実現のために国連が進める「ESD(Education for Sustainable Development, 持続可能な開発のための教育)の10年」(2005年～2014年)は昨年で最終年を迎え、次の枠組みについての議論の場としてユネスコ世界会議が2014年11月10日～12日に愛知・名古屋で開催されました。

グローバル化が進む社会において、私たちは国と国の枠組みを超えて協力しあい、持続可能な社会の実現に向けて具体的に動き出す必要があります。ESDはそういった人材を育てる上で非常に重要な意味を持っています。本シンポジウムでは、「ESDの10年」と韓国と広島におけるESDの実践例を元に、次世代にどのように未来を引き継いでいくのか考えてみたいと思います。

日時:2015年2月4日(水)14:00-16:30

場所:広島大学東千田キャンパス

総合校舎A棟 302号室

(広島市中区東千田町1-1-89)

参加費:無料

*どなたでもご参加いただけます。



<内容>

14:00～14:10 始めの挨拶

14:10～14:50 講演「ESDの10年の取組みとこれから」

広島大学平和科学研究センター特任教授 木曾功氏

14:50～15:30 講演「韓国と広島でのESDの実践」

広島大学名誉教授 中山修一氏

15:30～15:45 休憩

15:45～16:20 対談:木曾功氏、中山修一氏

コーディネート:小倉亜紗美(広島大学 平和科学研究センター助教)

16:20～16:30 終わりの挨拶



広島大学平和科学研究センター特任教授

内閣官房参与、前ユネスコ大使

きそ いさお

木曾 功 氏



広島大学名誉教授

なかやま しゅういち

中山 修一氏

広島県出身。1975年に東京大学卒業後、文部省入省。その後大学局、学術国際局ユネスコ国際部などを経て、広島県教育委員会教育長(1996～98)、文部省高等教育局私学部私学行政課長(1998～99)、文部省学術国際局国際企画課長(1999～2001)、(2001～02)文部科学省大臣官房国際課長、文化庁文化財部長(2002～04)、独立行政法人日本学術振興会理事(2004～07)、文部科学省国際統括官(2007～12)、ユネスコ日本政府代表部特命全権大使(2012-13)などを歴任。2014年4月より内閣官房参与(ユネスコの文化関係施策担当)、広島大学平和科学研究センター特任教授を務める。

広島大学名誉教授。専門分野は、人文地理学・地理教育。教育学部教授、大学院国際協力研究科長、平和科学研究センター長を歴任。この間、日本ユネスコ国内委員(2001～7)として、ESDの推進に関わる。また、ユネスコ・バンコク事務所のESDコンサルタント(2004)として、アジア太平洋地域ESD現況調査並びにESDアジア太平洋地域戦略の編集に関わる。

<問合せ先>

広島大学平和科学研究センター

TEL 082-542-6975 FAX 082-245-0585

E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp